

AIとクリエイターが共に発展するためには

2年5組 佐々木 桃香

◆アブストラクト

ここ数ヶ月で、AIは目まぐるしく進化を続けています。私が特に注目しているのはAIイラストです。機械化により仕事が奪われ続けている社会において、芸術という分野はしばらくは安泰と考えられていました。しかし、今はどうでしょうか？今後の芸術はどうなるのか、AIとどう向き合うべきか。AIとクリエイターの今後について考えました。

◆もくじ

- 1.はじめに
- 2.事前調査
- 3.アンケートの概要
- 4.結果
- 5.考察
- 6.まとめと今後について
- 7.謝辞
- 8.参考文献

1.はじめに

芸術という分野は、何よりも人間の創作力を必要とします。それ故、AIにより仕事を奪われ始めていても、さほど焦りを感じていなかったはずです。しかしあつというまにAIは作品のデータを学習し、成長をしました。今注目を集めているのは間違いなくAIイラストの話題でしょう。それも、聞くのは悪い話ばかりです。

AIイラストの具体的な問題点と、それに対する今後の発展方法を模索することは、クリエイターの未来を考えることと同義だと私は思います。そのために、この探究をしようと決めました。

私は、大きく分けて3つの議題について考えました。

- ①AIの絵は欲しいと感じるのか
- ②AIに絵の仕事は奪えるのか
- ③今後の芸術はどうあるべきか

以下は議題に基づいて詳しく調査した結果です。

2.事前調査

◆AIイラストの問題点

AIの活用には、膨大なデータの学習が必要不可欠です。現在のAIイラストが問題は、ここに着目すべきだと考えています。

AIイラストの学習元の多くは、インターネット上に投稿された画像が多いです。インターネットにはほとんど無尽蔵と言える画像データがあるため、AIの学習には最適だと言えるでしょう。しかし、そのほとんどは作者の許可なく無断で使用されているということが問題に上がっています。X(旧Twitter)上でも、データを提供したくないと答えている人が多いという結果(画像1)になっています。そのため、その学習データで作られた生成物に好意的でない人も多いというのが現状です。

絵を仕事で描いている人(イラストレーターなど)またはプロでなくても同人やskebなどで絵で金銭を得る人に質問です。

【質問1】

「画像生成AIの学習データとしてあなたの作品を提供してください」と依頼されたら、あなたは作品を提供しますか？



26,945票・最終結果

【質問2】

質問1で画像生成AIの学習用に作品を「提供しない」と答えた人に質問です。

「お金を払うので学習データとして使用させてください」と依頼された場合、あなたはどのような条件を求めますか？

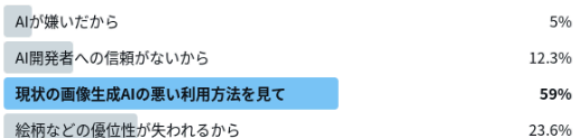


12,918票・最終結果

【質問3】

質問2で「お金が払われても作品を提供しない」と答えた人に質問です。

あなたはなぜ画像生成AIに作品を提供しないのですか？複数の理由がある場合はもっとも強い理由を選んでください



9,840票・最終結果

画像1:X(旧Twitter)上で行われたアンケート調査(引用許可確認済)

また、法の整備が間に合っていないというのが現状です。AIによって作られた画像は、類似性が認められれば著作権侵害になるという文化庁の資料(画像2)が既に発表されています。

AIと著作権の関係等について	
基本的な考え方	
■ 著作権法では、著作権者の権利・利益の保護と著作物の円滑な利用のバランスが重要	
■ 著作権は、「思想又は感情を創作的に表現した」著作物を保護するものであり、単なるデータ(事実)やアイデア(作風・画風など)は含まれない	
■ AIと著作権の関係については、「AI開発・学習段階」と「生成・利用段階」では、著作権法の適用条文が異なり、分けて考えることが必要	
現状の整理	
AI開発・学習段階 (著作権法第30条の4^{※1}) ※1 2023年著作権法改正により創設された	生成・利用段階
・ 著作物を学習データとして収集・複製し、学習用データセットを作成	・ AIを利用して画像等を作成
・ データセットを学習して、AI(学習済みモデル)を開発	・ 生成した画像等をアップロードして公表、生成した画像等の複製物(イラスト集など)を販売
■ AI開発のような情報解析等において、著作物に表現された思想又は感情の享受を目的としない利用行為 ^{※1} は、原則として著作権者の許諾なく利用することが可能	■ AIを利用して生成した画像等をアップロードして公表したり、複製物を販売したりする場合の著作権侵害の判断は、著作権法で利用が認められている場合 ^{※2} を除き、通常の著作権侵害と同様
※1 例えば、3DCG映像制作のために風景写真から必要な情報を抽出する場合であって、元の風景写真が表現上の本質的な特徴(趣意)に類似するよう複製物の作成を目的としない利用行為は、元の風景写真の複製等を行うことと目的が異なるため、著作権者の許諾なく利用することが可能	※ 個人的に画像を生成して鑑賞する行為(私的利用のための複製)等
■ ただし、「必要と認められる限度」を超える場合や「著作権者の利益を不当に害することとなる場合 ^{※2} 」は、この規定の対象とはならない。	■ 生成された画像等に既存の画像等(著作物)との類似性(創作的表現が同一又は類似であること)や複製性(既存の著作物をもとに創作したこと)が認められれば、著作権者は著作権侵害として損害賠償請求・差止請求が可能であるほか、刑事罰の対象となる
※2 例えば、複製権利用に際しては、データベースの著作権者AI学習目的で複製する場合など	
今後の対応	
■ 上記の「現状の整理」等について、セブチ等の問題を速やかに普及・啓蒙	
■ 知的財産法学者・弁護士等を交え、文化庁においてAIの開発やAI生成物の利用に当たっての論点を速やかに整理し、考え方を周知・啓蒙	
■ コンテンツ産業など、今後の産業との関係性に関する検討等について	

画像2:文化庁「AIと著作権の関係等について」より引用

しかし、既に多くの問題が出ています。例としてあげると

1)AIに読み込ませて先に完成させることで、著作権を持っているのは先に作ったのは私だと主張する。

2)依頼途中で確認用のラフ(ここでは簡易的に描かれた見本のようなもの)を受け取った後、キャンセルや失踪をすることで支払いをせずに持ち逃げしたラフをAIに読み込ませ、無料で好みの絵を生み出す。

3)他者のイラストを許可なく学習し、注意を受けると憤慨しその人の絵柄に寄せた成人向けイラストや自殺を示唆するイラストを生成し脅しをかける。また、無断で有償依頼を募集する(利用されたサイトはAIイラストによる有償依頼を禁止している)。

4)描き手の意図していないところで勝手にAIによる大量の模倣作品が配布され、本来の描き手がAIイラストの疑いをかけられる。

などの被害が出ています。法の整備が少しずつ進んでいるとはいえ、依然生成AIの利用者とクリエイターとの関係は問題になることが予測されます。

以上のことから、現状公的な場でAIイラストを使うのはまだリスクがあること、ただし法や学習データの安全が保証された場合は変化があることがわかりました。

◆AIによる漫画の生成

日々急成長を遂げるAIの、新たな試みとしてはAIを用いた漫画制作が挙げられます。具体的には『手塚治虫の漫画を学習し、AIを活用して新たな漫画を制作する』という試みです。

「AIで挑む手塚治虫の世界」と題されて作られた漫画『ぱいどん』はキャラクター原案と、シナリオのプロットをAIが担当しています。

このプロジェクトは「キャラとプロットを考えるだけの存在を漫画家といえるのか」「AIがどこまでやれるのかを見たい気持ちはあるものの、AIが描いた漫画といえる段階ではない」という点から一度白紙になりかけました。しかし、プロジェクト担当者の「制作を続けるほど、AIが漫画を作ることは難しく、人がしていたことの凄さを思い知った」という発言に、編集長は手塚治虫がこの事態を見たら面白いのではないかと考えたそうです。その結果、AIが果たした役割を読者に対して明確に提示することを条件として、掲載決定となりました。

このプロジェクトはまだAIを活用した部分が少ないものでしたが、AIの活用法としては革新的なものなのではないでしょうか。

◆アンケート前の考察

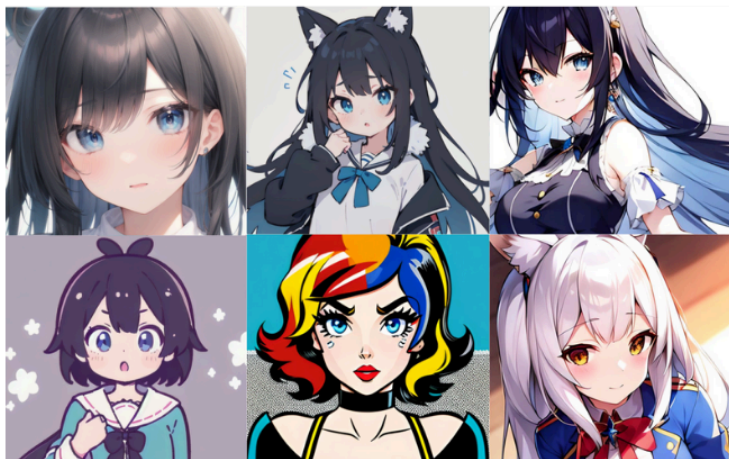
先程の事前調査から、AIの絵は「上手い」が「欲しい」と思わないと予想しました。ま、AIイラストは現状問題点が多いため、会社等の場で使うにはリスクがあると思います。そのため、現状では仕事を奪うことは無理なのではないかと考えます。これを裏付ける根拠を得ることで、疑問②『AIに絵の仕事は奪えるのか』の解決に繋がるでしょう。

そのためのアンケートを実施し、AIイラストに対する市場調査をすることにしました。

3. アンケートの概要

アンケートはGoogle formを利用して行いました。アンケート内容は以下の通りです。ここでは実際に実施したアンケート画面を提示します。

◆1 まず最初に、この画像一覧についての質問を行います。



※著作権の関係により、使用したAIイラストのみ表示しています。
実際は『人が描いたイラスト』と『AIが描いたイラスト』を混ぜて表示していました。

1-1 上記の画像一覧において、「欲しい、購入したい」と感じた絵はどれでした *
か？直感で1つお答えください。(実際に購入するわけではありません)

選択 ▼

アンケートはまだ続きます。もう少しだけお付き合いください。

次へ

フォームをクリア

◆2 次に、生成AIについての質問です。

2-1 AIイラストを今後使う予定はありますか？ *

- ☐ ある（普段絵を描く）
☐ ある（絵を描かない）
☐ ない（普段絵を描く）
☐ ない（絵を描かない）
☐ わからない
☐ その他: _____

2-2 現在のAIイラストは問題視されている事が多いです。その理由は知っていますか？ *

- ☐ よく知っている方だと思う
☐ なんとなく知っている
☐ あまり知らない
☐ 全く知らない
☐ その他: _____

◆3 最後に、クリエイターとAIの今後についてです。

3-1 今後、絵を描く仕事もAIに奪われると思いますか？ *

- ☐ はい
☐ いいえ
☐ わからない
☐ その他: _____

3-2 3-1について、よければ理由を教えてください。

回答を入力

アンケートは以上です。
貴重なお時間をいただきありがとうございました。
次のページにどのイラストが生成AIによるものかの答え合わせがあります。
気になる方はどうぞ。

先程のイラスト一覧には、生成AIによって作られたイラストが含まれています

どれがAIによるものかは、まだ公表しません。

1-2 生成AIにより描かれたイラストでも、クオリティが高ければお金を支払って購入したいと考えますか？ *

- ☐ はい
☐ いいえ
☐ その他: _____

1-3 1-2について、よければ理由を教えてください。

回答を入力

画像5: アンケートの実際のスクリーンショット(上画像)と
アンケートのお願いに使用した配布資料(右画像)

使用したAIイラスト生成サイト

- ・AIピクチャーズ (<https://www.aipictors.com/>)
- ・Fotor (<https://www.fotor.com/ai-image-generator/>)
- ・My edit (<https://myedit.online/jp/photo-editor/ai-image-generator>)



4.結果

1-1(アンケート画像参照 以下略)の結果、63.8%(67票)がAIイラストに入りました。また1-3について、集まった解答の一部を紹介します。

『AIイラストでも購入する』と答えた人の理由として「好みだから」「誰が描いたのか気にしないから」「絵は絵だから」などの理由が挙げられました。

そして『AIイラストなら購入したくない』と答えた人の理由として「人が描いた絵が良い」「AIと分かると魅力が無くなる」などの理由が挙げられました。

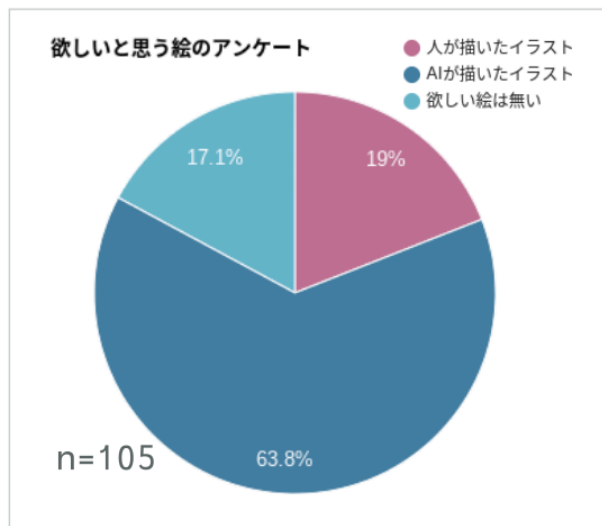
またその中には「そもそも絵にお金をかけたくない」「絵に興味がない」「ネットで見れる」という理由の人が予想以上に多いという結果になりました。

一方で3-1については、およそ45%の人が『絵を描く仕事はAIに奪われない』と考えていることがわかりました。

理由については「手描きの良さがあるから」「人の個性を再現するのは難しいから」「作家独自の作風に魅力を持つ人もいるから」などという声が挙げられました。

また、およそ8割の人が『今後AIイラストを使う予定は無い』と答えていることがわかりました。

最後に今回のアンケートに解答してくださった方々へ質問したところ、「普段絵を描かない」と答えた人はおよそ8割、「現在のAIイラストが問題視されている理由は知っていますか」という質問に「あまり知らない・全く知らない」と答えた人が7割という結果でした。



画像4: アンケート結果の円グラフ

5.考察

まず「議題①AIの絵は欲しいと感じるか」についてです。これについては「一定のクオリティであればAIの絵でも魅力的に感じるが、購入したいと思わせる決定打には欠ける」ということが、今回のアンケート結果から考えられます。

次に「議題②AIに絵の仕事は奪えるのか」についてです。これについては「AIイラストが一定のクオリティになれば使う人は増えるかもしれないが、個人が行うイラストレーターへの依頼等はまだ無くならない」のでは、と考えられます。

次に回答者の統計についてです。

AIイラストの問題は予想よりも知られていないことがわかりました。この結果はX(旧Twitter)上でのアンケート結果や、事前調査で受けた印象と大きく違うように見受けられます。

これについては、以下の考察をしています。SNSは、性質上興味のある人が自然とアンケートに参加したり、コメントをしたりすることが多いです。一方、学校内アンケートでは不特定多数の生徒の皆さまによる協力を得ることができました。そのためインターネット上で見受けられた「絵を描く・絵を好む人」による否定的な声に比べて「絵を描かない・絵に興味がない」方々によるAIイラストへの肯定的な声が予想以上に多かったのではと考えています。

6.まとめと今後について

最後に「議題③今後の芸術はどうあるべきか」についてです。AIの進歩は続くでしょう。ならば共存し活用する方法を模索する必要があります。ことがわかります。

まず第一にすべきことは、不利益を被る人を減らすことです。AIイラストによって生まれるトラブルを未然に防ぐことは、今後の共存で重要な議題になってくるでしょう。そのためには「1.学習データの使用許可が降りている物だけで生成AIを作る」「2.AIイラストの著作権について、具体的な法と判例を国内で作る」ということが必要ではないかと考えられます。しかし膨大な時間がかかる等の問題点が多いため、いずれも個人には難しいでしょう。

そこで私はAIイラストの問題と正しい活用法の周知のために出来ることを考えました。AIイラストは短時間で大量の絵を出力できるのが強みと言えます。私はその強みを町おこしに活かす「フォトモザイクアート」を提案します。フォトモザイクアートは、モザイクタイルの一枚一枚が1つの絵や写真で作られた作品のことです。この活用として、AIイラストを使って名所の写真等をモザイクアート化することを考えました。また、学習元データとなる画像やイラストを市民から集めることで、「安全なデータのAIイラスト」に近づけるのではないのでしょうか。このような話題作りが、AIイラストの問題提起と共存に繋がれば良いと思います。

また、2024年1月中旬から2月上旬に文化庁によるパブリックコメントの募集がありました。さらに、同じく2月にデジタル庁での募集、3月には総務省での募集もあります。これらは私達の考えを伝える重要な機会になりえることが予測されます。1つでも多くの声が届き、反映されることを願います。

人の手で、人のアイデアで生まれる芸術に、意味はあります。AIにデータを与えるだけの餌であることは、芸術の衰退を表します。無尽蔵のデータによってAIで作られ出されるものとは、過去の作品です。新しいものを生み出せるのは、やはりまだ人間です。人が描けないことはありません。その手で、あるいは足や口を使って。いつでも私達はクリエイターになれます。

人によって作られる芸術を守り、そして新たな技術と共存し発展していくことに、今回の探究が少しでも繋がれば良いと思います。

7.謝辞

執筆にあたりご指導、アンケート配布のお力添えしていただいた吉田正和先生に多大な感謝を申し上げます。また、今回の調査にご協力いただいた校内の皆様にお礼申し上げます。

8.参考文献

<https://qiita.com/omiita/items/ecf8d60466c50ae8295b>

https://note.com/freena_illust/n/n41043ec3a0a2

<https://x.com/999cc/status/1643603761133412353?s=20>

https://www8.cao.go.jp/cstp/ai/ai_team/3kai/shiryu.pdf

<https://twitter.com/tatatataniguthi/status/1642906006614327296?t=5ORUI6TSKuU8CeW5qHJTrQ&s=33>

<https://realsound.jp/book/2020/08/post-597774.html>

https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%81%B1%E3%81%84%E3%81%A9%E3%82%93#cite_note-advertimes-61

<https://x.com/urct/status/1745036051490738545?s=20>

https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/pdf/93903601_01.pdf

https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/chosakuken/hoseido/r05_04/pdf/93967801_12.pdf

https://x.com/CAPYBARA_AI_2D/status/1737797274003226768?s=20

https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/chosakuken/hoseido/r05_05/pdf/93980701_01.pdf

https://www.kantei.go.jp/jp/singi/titeki2/pdf/20240101_new_cooljapan.pdf

https://x.com/CRIC_official_?s=20

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1031&id=290401301&Mode=0>

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=145210240&Mode=0>

<https://www.easymoza.com/index.php?t=14>

文化審議会著作権分科会法制度小委員会 今後の進め方（予定）

令和5年	11月20日	・AIと著作権に関する考え方について（骨子案） 等
	12月20日	・AIと著作権に関する考え方について（案） 等
令和6年	1月中旬	・AIと著作権に関する考え方について（案） 等
	1月中旬 ～2月上旬	◎パブリックコメントの実施
	2月下旬	・パブリックコメントの結果公表 ・AIと著作権に関する考え方について（案） 等
	3月	◎文化審議会著作権分科会において報告

画像5:文化庁『文化審議会著作権分科会法制度小委員会 今後の進め方（予定）』より引用

提出内容

受付番号：	185001345000002652
提出日時：	2024年1月25日20時59分
案件番号：	185001345
案件名：	「AIと著作権に関する考え方について（素案）」に関する意見募集の実施について
所管省庁・部局名等：	文化庁著作権課 電話：03-5253-4111(内線4824)
意見・情報受付開始日時：	2024年1月23日14時0分
意見・情報受付締切日時：	2024年2月12日23時59分

画像6:実際に私がパブリックコメントを提出した際の控え